

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：特別支援教育費 目：特別支援教育振興費

事業名【新】視覚障がい児童生徒支援充実事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 特別支援教育課 発達障がい教育係 電話番号：058-272-1111(内8684)

E-mail：c17783@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,073 千円 (前年度予算額：0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	3,073	0	0	0	0	0	0	0	3,073
決定額	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・過去8年間の就学時検診で「弱視」の診断がある児童生徒が22名、県内で拡大教科書を使用している児童生徒は17名いる。
- ・岐阜盲学校のセンター的機能を活用して相談をする人数は、令和2年からのべ56名、71名、73名と増えている。就学前段階での相談人数も同80名、26名、53名いる。
- ・視覚障害を対象とする特別支援学校は岐阜盲学校1校であり、県内における弱視の特別支援学級の設置もない。高い専門性を必要とするため、盲学校教員による遠方への支援体制の構築が急務の課題である。

(2) 事業内容

- ・岐阜盲学校の通級専任教員が、県内の小、中、義務教育学校を対象として、通級による指導を行う。
- ・県内各地において、教育委員会や学校を訪問し、実態の把握やニーズの把握に努める。
- ・専任教員が通級による指導を行うための後補充に、会計年度任用職員を配置する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県 10/10

(4) 類似事業の有無

聴覚障がい児童生徒支援充実事業

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	2,199	報酬(2,192)、共済費(7)
旅費(費用弁償)	139	通勤手当
旅費	583	通級専任教員(568)、県指導主事(15)
役務費	2	電話代、郵送料
消耗品費	150	教材、教具
合計	3,073	

決定額の考え方

センター的機能対応加配教員が対応すべき業務であり、他校と比較しても対応件数が少なく余裕があることから、計上を見送ります。

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

子どもかがやきプラン 改訂版(平成21年3月)

(2) 国・他県の状況

- ・通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方に関する検討会議報告(令和5年3月13日)
- ・弱視特別支援学級の設置がある都道府県(小:41、中:33、義:4)
- ・通級による指導を実施している都道府県(小:20、中:7、高:3)
- ・愛知県では同様の取り組みを2校の盲学校で通級による指導を実施。
- ・長野県も同様に2校の盲学校で通級による指導を実施。

(3) 後年度の財政負担

事業継続中は財政負担となる。

(4) 事業主体及びその妥当性

県内で視覚支援を対象とする学校は岐阜盲学校のみであり、県内全域を支援する必要がある。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 視覚障がいのある幼児児童生徒や保護者、関係職員が、視覚障がい支援専任教員による専門的な支援が受けられるように体制を整備する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

聴覚障がいのある児童生徒に対する支援を充実させることが事業内容であり、指標の設定になじまない。

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和 3 年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和 4 年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

- ・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)
3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない

(評価)

- ・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)
3:期待以上の成果あり
2:期待どおりの成果あり
1:期待どおりの成果が得られていない
0:ほとんど成果が得られていない

(評価)

- ・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)
2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている

(評価)

(今後の課題)

- ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項

(次年度の方向性)

- ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント
又は事業名及び所管課

【〇〇課】

組み合わせて実施する理由
や期待する効果 など